

1. 評価結果概要表

平成 19年 11月 16日

【評価実施概要】

事業所番号	2093400014		
法人名	飯綱町社会福祉協議会		
事業所名	グループホーム「わが家」		
所在地	飯綱町倉井2562-2 (電話) 026-257-1077		
評価機関名	株式会社福祉経営サービス研究所 サービス評価推進室		
所在地	長野県松本市深志3丁目7番17号		
訪問調査日	平成19年11月7日	評価確定日	平成20年1月10日

【情報提供票より】(19年 10月 20日 事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 14年 5月 2日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	6 人
職員数	10 人	常勤10人	非常勤0人 常勤換算6.3人

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り		
	2 階建ての	1・2	階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	15,000 円	その他の経費(月額)	13,000~17,000 円
敷 金	家賃2ヵ月分		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 900 円		

(4) 利用者の概要 (10月 20日 現在)

利用者人数	6 名	男性	名	女性	6 名
要介護1		要介護2		3名	
要介護3	2名	要介護4		1名	
要介護5		要支援2			
年齢	平均 87.1 歳	最低 82 歳		最高 96 歳	

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	ながさき医院・飯綱病院
---------	-------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当ホームは、平成17年10月に旧三水村と牟礼村が合併した、現在の飯綱町に位置し、現飯綱町社会福祉協議会が平成14年5月に高齢化率の高い山間地の中で、独居で困っていても施設に入所できない方、在宅では介護が無理の方がいることから、社協で地区への説明を2回聞き、理解を求め民家改修型によるホームが開設され、先般の地震の際にもいち早く地域の目が届くなど、今では地域と一体となり、持ちつ持たれつのアットホームな一軒の家である。利用者も地元の方であるため、近所の方がいつでもお茶を飲みに来たり、利用者が出向いたり自由に自然体の生活がそのまま維持され、地域密着が充分感じられる理想のホームである。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の評価で指摘された部分である ①介護計画の見直しの期間 ②感染症対策マニュアルの作成 ③ホームたよりの発行 について全てが改善され、職員全員の取り組みが窺えた。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	職員全員で自己評価を行ったことにより、取り組み課題・改善点を職員全員が理解し、更なるサービスの質の向上に繋がっている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	自己評価を行い、運営推進会議の出席者に意見を仰いだ。鍵を掛けない取り組みに理解を得た。また、以前家族会を行っていたが、運営推進会議が開かれたことにより、殆どの家族も参加しており、家族会も兼ねられ、更に地域の方・主治医・市の職員の参加により、話題が豊富であり、地域でのホームの役割、或いは先般の地震の様な災害時のホームへの地区の役割等活発な意見交換。また、焼き肉パーティーの日に開くなどし、和やかな交流会にもなっている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	利用者が地元の方である為面会は頻繁であり、面会時には声がけをし、気軽に意見や要望など言える雰囲気作り心がけている。また、殆どの家族が運営推進会議にも参加されており、主治医からそれぞれの家族に利用者の健康状態の説明もされるなど、不安の対応もされている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域の自治会・小学校・中学校の行事に声を掛けて頂き積極的に参加している。地区の行事・作業に男性である管理者が参加し、力仕事など協力したり地区への寄付などでも貢献している。また、ホームが支え合いマップにも掲げられており、支える資源にもなっている。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	一人ひとりが『どんなときでも 私が主人公』を理念にし、当たり前の暮らしが送れるよう職員全員で取り組まれている。	○	今現在、地域密着型サービスとして取り組まれていることも含んだ内容の理念を掲げられることが望ましい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員全員で作上げた理念であり、月1回のケア会議で復唱し、日々実践に取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の敬老会、同じ法人のデイサービス・小学校の行事等に参加している。地域活動の力仕事などにも職員が積極的に参加し、協力をしている。午前と午後の散歩でゴミ拾いが自然に日課になったり、雑巾を縫って寄付をするなど、地域からも大変喜ばれ地域の一員であることが窺えた。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者は外部評価の意義を理解し、職員全員で自己評価に取り組むなど、改善すべき点を確認し、サービスの向上に取り組んでいる。		

グループホーム「わが家」

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	家族会も兼ね、昨年4月から2ヶ月に1回、もしくは行事に合わせて開くなど、頻繁に行い地域・家族と積極的に意見交換や交流が行われ、改善点にも意見を頂きサービスの向上に活かしている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	地域包括支援センター・保険福祉課担当者が時折訪問され、情報交換を行うなど交流を行っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	面会時には声掛けをし、様子を伝えている。月に1回郵送する請求書と共に、金銭明細のコピーと日頃の様子の写真を1枚同封し、お知らせしている。身体の状態は、運営推進会議に家族もほとんどの方が参加するため、利用者の主治医も参加し、それぞれの家族に状態を伝えている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	管理者は、気軽に話が出来る様心がけ、面会時などにはご家族から何でも話していただいております。日頃のケアに反映させている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	異動は、利用者と職員が馴染みの関係づくりを築いているため、ホームには理解を得、なるべく避けている。代わる場合には、利用者・家族に説明をし理解を得るようにしている。		

グループホーム「わが家」

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員全員が年1回は外部研修に参加している。内部研修は、2ヶ月に1回法人の宅老所2カ所と合同で開き、認知症ケアのトレーニングを重ねている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	圏域のグループホーム連絡会を結成し、管理者はネットワークに参加され、近隣のグループホームと2ヶ月に1回勉強会を開き、サービスの質の向上に取り組んでいる。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	空き部屋が生じたときには、ショートステイ・通所ケアなどで体験利用しながら馴染みの関係づくりを築き、家族と相談しながらサービス利用開始をしていただいている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	調査訪問日も利用者と職員が干し柿の用意をされており、むいた皮は干して漬け物に使う準備をするなど、家族の一員として、人生の先輩の色々な場面で生活の知恵を利用者から教えて頂いたり、共に生活している姿が窺えた。		

グループホーム「わが家」

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々、一人ひとりの希望を聴きながら、意向に添った暮らしが出来るよう努めている。利用者が地元の方のため、近所のお友達を訪ねたり、お友達が毎日のお茶を飲みに来たり訪問してくださったり、『私が主人公』である生活のサポートの検討が常に行われている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	生活歴など、利用契約時に聞き取りされている情報を参考にしたり、家族においては個別に訪問し、家族の希望を聴きながら本人の希望も踏まえ、毎月のケア会議で意見交換し、一人ひとりが主人公になるよう介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は6ヶ月、または状態変化や状況により本人・家族の希望を聴きなが職員全員で検討会を開き、随時見直しも行っている。	○	変化が無くとも3ヶ月を目安に見直しを行うことが望ましい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	高齢者世帯が多い地区であるため、近所の高齢者の困り事には電話があれば駆けつけたり、制度外で独居の方の安否確認を含め訪問やお招きをしたり、独自に通所を受け入れるなど、地域からの要望と利用者がお友達に会える事など柔軟に支援している。		

グループホーム「わが家」

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	地元の利用者であるため、家族皆主治医が同じであり、運営推進会議に主治医も参加されて、それぞれの家族に利用者の健康状態を直接話して頂いており、本人・家族・事業所・かかりつけ医の密な関係が保たれている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	看取りの指針も作成されており、利用契約時には説明をし希望を聞いている。状態に変化が生じた都度家族に希望を確認し、主治医とも相談しながら出来る限り希望に添えるよう支援をしている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員の言葉かけなど、一人ひとりを主人公としてプライバシーを損ねる事がない、対応が窺えた。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりが主人公であり、日々の体調にもよりその都度希望を聴きながら、希望に添った支援をしている。		

グループホーム「わが家」

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	その都度希望をお聞きし、皆さんで作られた野菜や、近所からの沢山の頂き物を使い、足りない物の買い物品を決めて買い物に出向いたり、時間にとらわれず全員参加により食事の準備から、片付けまで楽しみながら行われていた。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日入浴しているので、入浴の順番は大まかに決めており今までトラブルはない。一人ひとりの体調等によっては、足浴・清拭により支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりの生活歴や経験を活かし、畑で野菜作りなど力量の発揮できる場面づくりをさりげなく行い、日々張り合いのある生活の支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い日には、午前と午後にお散歩をしながらゴミ拾いが日課になっている。また、食材の買い出し・ドライブに出かけたり、法人のデイサービス・宅老所・パワーリハビリに行く方もいるなど、機能低下防止も兼ね一人ひとりの外出の機会を多く持つよう支援されている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	昔ながらの地区であり、夜も鍵を掛けない生活をされてきた利用者であるため、夜間のみでも鍵を掛けることが徹底されておらず、自然体の生活が窺えた。		

グループホーム「わが家」

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年1回、地区の合同防災訓練・自主避難訓練は利用者と職員全員で参加している。1月15日の地区の新年会に管理者が参加し、伍長さんに『目を貸してほしい』との地区へのお願いをし、地域防災協定も結んでおり、先頃の地震の際にもいち早く地域の目が届いた。12月には、夜間訓練を行う計画がある。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスに配慮した献立づくりを行っており、食事・水分の摂取量はおおよそ把握している。母体法人の栄養士に栄養バランスについて、メニューなどから意見を仰ぐ事を検討している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	築35年位の民家改修型のホームに、地元の利用者による生活空間であるため、自宅にそのまま生活しているようであり、裏の畑で野菜を作り、その横には山羊を飼い、昔ながらの生活を維持しているような静かに時の流れを感じさせる居心地の良さが感じられ、懐かしささえ覚える自然体の生活が窺えた。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	お部屋に収まる範囲で特に持ち込みには制限をしていないが、利用者の状態により、家族と相談することもある。個々に馴染みの使い慣れた筆筒や、お部屋の飾りなど持ち込まれ、居心地の良い生活空間がかもたされていた。		

※ ■ は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票(様式1)を添付すること。